

第 18 回根研究集会に参加して

大梅 健太郎

大阪市立大学大学院理学研究科

2003年6月14日(土)、大阪市立大学文化交流センターにおいて第18回根研究集会が開催されました。私にとって根の研究集会に参加するのは今回が初めてであり、また、今回の集会の運営を裏方としてサポートすることとなっていたので、期待と少しの緊張感が適度に折り重なった気持ちを抱いて本集会に臨みました。

本集会は、特別講演、口頭発表、ポスター発表の三つから成り立っていました。一番最初の特別講演は、Knut Schmidtke 先生の Agricultural research: towards sustainable agriculture - New strategies in Germany でした。この講演では、農機具の巨大化が土壌を圧縮し、そのために根が張りづらくなって収量が減少してしまうということが非常に印象的で、興味をひきました。そして持続的な農業を進めていくことの重要さと難しさがよく分かりました。口頭発表では様々な興味深い研究が分かりやすく紹介されました。酸性土壌に適應する為のアルミニウム耐性機構についての研究で、根がリンゴ酸やクエン酸を分泌するメカニズムについての解析結果は、非常に面白かったです。また、茶園で収穫量を増やす為に行なわれている窒素施肥が、過剰になりすぎると水質汚染を引き起こしたり、土壌微生物によって窒素肥料が分解されて温室効果ガスである亜酸化窒素が放出されたりするという研究には興味がそそられました。特別講演でも言われていたことですが、収量を増やす為に行なったことが逆に作物を痛めつけるという事実は非常に難しいことだと思います。発表の後の質問では活発なやり取りが行なわれ、内容への理解を深める一助となりました。ポスター発表では口頭発表とはまた違って、ゆっくりと

噛み砕いて説明していただけたこともあり、理解を深めることが出来ました。今回、根について研究している人たちには農学から工学まで様々な分野があることを知り、根の奥深さを思い知りました。また、実験装置や実験方法についての新しい知識を得ることが出来ました。私は冠水条件下におかれたアズキ芽生えの成長調節機構について研究を行なっています。完全に水中に没したアズキ芽生えの成長は強く抑制されます。これは、冠水による低酸素状態が浸透圧の低下を引き起こすためだと私は考えています。このことから、酸素状態を変化させることのできる実験器具について、興味を抱いていました。拓殖大学の仁木先生が紹介された、上下仕切り板による Growth tube 内の酸素濃度の制御の報告は、まさに、私が求めていたものでした。仁木先生には直接様々な話を聞かせていただく機会も得られ、私の今後の研究における視野を広げていただけました。この場を借りてお礼を申し上げます。今回の集会では、今まであまり接したことのない分野の方々の研究成果を見る機会に恵まれ、とても貴重な経験を積むことが出来ました。私はまだ学会などの場での発表経験がないのですが、自分でやり遂げた研究の成果を発表する皆様の姿をみて、うらやましく感じました。もっと頑張ってみようと思ってきました。自分の成果を発表したいと思いました。

最後になりましたが、皆様のご協力のおかげで大きなトラブルや、また、発表の進行にも大幅な遅れが出ることもなく、無事に集会を終えることができましたことを運営に携わった者の一人としてお礼申し上げます。ありがとうございました。

2003年6月20日受付

連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学大学院 理学研究科 植物生理学研究室 Fax: 06-6605-2577

E-mail: ooume@sci.osaka-cu.ac.jp